



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 関東電化工業株式会社
 コード番号 4047 URL <https://www.kantodenka.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 淳一

問合せ先責任者 (役職名) 法務・総務部長 (氏名) 代蔵 政伸

TEL 03-4236-8801

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

2022年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	37,307	32.3	6,581	48.9	7,346	67.6	5,192	71.2
2022年3月期第2四半期	28,202	15.6	4,418	139.1	4,383	154.3	3,033	269.1

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 6,592百万円 (80.7%) 2022年3月期第2四半期 3,647百万円 (150.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	90.38	
2022年3月期第2四半期	52.80	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	114,981	65,676	55.7	1,114.50
2022年3月期	109,902	59,908	53.0	1,014.01

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 64,031百万円 2022年3月期 58,254百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		8.00		14.00	22.00
2023年3月期		10.00			
2023年3月期(予想)				22.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	82,300	32.1	12,300	10.2	13,100	17.5	9,100	17.2	158.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	57,546,050 株	2022年3月期	57,546,050 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	93,120 株	2022年3月期	96,900 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	57,450,059 株	2022年3月期2Q	57,447,954 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2022年11月22日(火)に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。決算説明会にて使用する決算補足説明資料は、説明会開催後、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	6
(四半期連結損益計算書).....	6
(四半期連結包括利益計算書).....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	8
(継続企業の前提に関する注記).....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	8
(セグメント情報).....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果により持ち直しの動きが見られたものの、原燃料価格の上昇や急速な為替変動、物流の制約等もあり、依然として厳しい状況にありました。海外においても、ウクライナ情勢の長期化や金融資本市場の変動等による経済の下振れリスクに留意する必要性があり、先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、堅調な需要に支えられ精密化学品事業部門が大幅な増収となったため、373億07百万円と前年同期に比べ91億04百万円、32.3%の増加となりました。損益につきましては、原燃料価格は上昇したものの、主に精密化学品事業部門の増収効果により、経常利益は73億46百万円と前年同期に比べ29億62百万円、67.6%の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は51億92百万円と前年同期に比べ21億59百万円、71.2%の増加となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

① 基礎化学品事業部門

か性ソーダおよび塩酸は、販売数量は減少したものの価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

有機製品につきましては、トリクロールエチレンおよびパークロールエチレンは、販売数量は減少したものの価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、基礎化学品事業部門の売上高は、41億30百万円となり、前年同期に比べ3億94百万円、10.6%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益84百万円となりました（前年同期は営業損失84百万円）。

② 精密化学品事業部門

半導体・液晶用特殊ガス類につきましては、三フッ化窒素は、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。六フッ化タングステンおよびヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。

電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、精密化学品事業部門の売上高は、303億10百万円となり、前年同期に比べ83億24百万円、37.9%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益60億07百万円となり、前年同期に比べ20億87百万円、53.2%の増加となりました。

③ 鉄系事業部門

複写機・プリンターの現像剤用であるキャリアーは、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。鉄酸化物は、着色剤の販売減少により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、鉄系事業部門の売上高は、14億46百万円となり、前年同期に比べ2億18百万円、17.8%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益3億98百万円となり、前年同期に比べ1億62百万円、69.2%の増加となりました。

④ 商事事業部門

商事事業につきましては、化学工業薬品の販売増加により、前年同期に比べ若干の増収となりました。

以上の結果、商事事業部門の売上高は、3億56百万円となり、前年同期に比べ0百万円、0.2%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益90百万円となり、前年同期に比べ1百万円、1.9%の減少となりました。

⑤ 設備事業部門

化学設備プラントおよび一般産業用プラント建設の売上高は、請負工事の増加により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、設備事業部門の売上高は、10億63百万円となり、前年同期に比べ1億66百万円、18.6%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益3億84百万円となり、前年同期に比べ1億60百万円、71.2%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金が減少した一方、有形固定資産や棚卸資産が増加したことなどから前連結会計年度末に比べ50億79百万円増加し、1,149億81百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金や流動負債のその他が増加した一方、借入金が増加したことなどから6億87百万円減少し、493億05百万円となりました。

純資産は、利益剰余金や為替換算調整勘定が増加したことなどから57億67百万円増加し、656億76百万円となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末の53.0%から55.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年8月10日付にて公表しました業績予想を修正しております。あわせて、配当予想も修正しております。詳しくは、別途公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,728	18,518
受取手形、売掛金及び契約資産	16,921	19,075
電子記録債権	1,101	1,153
商品及び製品	5,182	5,096
仕掛品	4,416	7,171
原材料及び貯蔵品	3,526	5,431
その他	3,896	4,550
貸倒引当金	△68	△68
流動資産合計	61,705	60,929
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,872	9,784
機械装置及び運搬具（純額）	11,655	17,935
建設仮勘定	11,001	9,451
その他（純額）	6,692	6,907
有形固定資産合計	38,221	44,079
無形固定資産	728	769
投資その他の資産		
投資有価証券	7,464	6,947
繰延税金資産	1,165	1,297
その他	621	963
貸倒引当金	△4	△5
投資その他の資産合計	9,246	9,202
固定資産合計	48,196	54,051
資産合計	109,902	114,981

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,068	8,734
電子記録債務	835	1,305
短期借入金	4,200	4,515
1年内返済予定の長期借入金	5,886	6,666
未払法人税等	2,600	2,160
役員賞与引当金	134	53
その他	5,540	6,332
流動負債合計	27,265	29,769
固定負債		
長期借入金	20,166	17,002
役員退職慰労引当金	137	132
役員株式給付引当金	11	13
退職給付に係る負債	1,754	1,598
その他	657	789
固定負債合計	22,727	19,535
負債合計	49,993	49,305
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877	2,877
資本剰余金	1,829	1,829
利益剰余金	50,483	54,870
自己株式	△68	△65
株主資本合計	55,122	59,512
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,527	2,195
為替換算調整勘定	413	1,976
退職給付に係る調整累計額	191	347
その他の包括利益累計額合計	3,132	4,519
非支配株主持分	1,654	1,644
純資産合計	59,908	65,676
負債純資産合計	109,902	114,981

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	28,202	37,307
売上原価	19,646	26,047
売上総利益	8,556	11,259
販売費及び一般管理費	4,137	4,678
営業利益	4,418	6,581
営業外収益		
受取利息	2	6
受取配当金	122	145
為替差益	58	720
試作品売却益	-	111
その他	136	123
営業外収益合計	319	1,107
営業外費用		
支払利息	137	184
デリバティブ評価損	35	116
試作品売却損	137	-
その他	45	41
営業外費用合計	355	342
経常利益	4,383	7,346
特別損失		
固定資産除却損	20	130
投資有価証券評価損	-	15
特別損失合計	20	146
税金等調整前四半期純利益	4,362	7,199
法人税等	1,217	1,987
四半期純利益	3,144	5,211
非支配株主に帰属する四半期純利益	111	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,033	5,192

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	3,144	5,211
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	122	△386
為替換算調整勘定	381	1,610
退職給付に係る調整額	△1	155
その他の包括利益合計	502	1,380
四半期包括利益	3,647	6,592
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,472	6,579
非支配株主に係る四半期包括利益	174	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	3,735	21,986	1,227	355	897	28,202	—	28,202
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	0	691	1,451	2,143	△2,143	—
計	3,735	21,986	1,227	1,047	2,348	30,345	△2,143	28,202
セグメント利益又は 損失(△)	△84	3,920	235	92	224	4,389	28	4,418

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額28百万円は、セグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,130	30,310	1,446	356	1,063	37,307	—	37,307
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	0	650	1,851	2,502	△2,502	—
計	4,130	30,310	1,446	1,006	2,915	39,809	△2,502	37,307
セグメント利益	84	6,007	398	90	384	6,966	△385	6,581

(注) 1. セグメント利益の調整額△385百万円は、セグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。